

琵琶湖博物館の今年度の運営状況および 第2期リニューアルの実施設計(案)について

1 今年度の運営状況 (4/1~2/28 の 11 か月間)

(1) リニューアル全体スケジュール

	第1期 リニューアル	第2期 リニューアル	第3期 リニューアル
リニューアル 内容	・C展示室 ・水族展示室	・交流空間 (おとなのディスカバリー、 ディスカバリールーム、レスト ラン、ショップ、樹冠トレイル、 旧UNEP施設)	・A展示室 ・B展示室
平成24年度	「新琵琶湖博物館創造ビジョン」の策定		
平成25年度	「新琵琶湖博物館創造基本計画」の策定		
平成26年度	設 計		
平成27年度	施 工		
平成28年度	施工・オープン	設 計	
平成29年度		施 工	
平成30年度		施工・オープン	設 計
平成31年度			施 工
平成32年度			施工・オープン
全体事業規模 約30億円	約15億円	約15億円	

(2) 来館者数等について (平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 2 月 28 日まで)

- ・来館者数 428,955 人 (今年度目標数 42 万人)
- ・今年度の 1 日当たり最大来館者数 平成 28 年 7 月 17 日 (日) 9,414 人
- ・倶楽部 L B M (年間会員) 入会者数 5,716 人 (今年度目標数 3,000 人)

月別来館者数一覧表

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
一般	5,867	8,299	6,797	36,867	60,883	29,951	25,602	21,946	11,350	13,808	11,701	233,071
高校生・大学生	1,263	521	258	1,245	2,924	1,791	1,101	1,112	548	456	488	11,707
小学生・中学生	2,077	4,532	3,925	13,058	24,421	11,921	21,641	12,908	4,412	5,409	3,339	107,643
未就学児	1,898	2,282	1,738	12,121	22,106	8,958	7,860	6,364	3,202	5,347	4,658	76,534
合計	11,105	15,634	12,718	63,291	110,334	52,621	56,204	42,330	19,512	25,020	20,186	428,955

来館者数については、リニューアルにより幅広い年齢層にご利用いただき、今年度の目標としていた 42 万人を 2 月 19 日に達成し、2 月末時点で 428,955 人となっている。

一方、未就学児や小中学生等の利用や家族ふれあいサンデーなど無料での利用が多かったことから、観覧料収入については、2 月末時点で 116,587 千円となっており、3 月分を加えても、今年度当初予算額の 160,835 千円に達しない見込みである。

今後は、旅行社との連携を強化するなど、一般団体客の誘致にも努めていく。

2 第2期リニューアルの実施設計（案）について

（1）樹冠トレイル

原案からの変更内容（更なる工夫点）

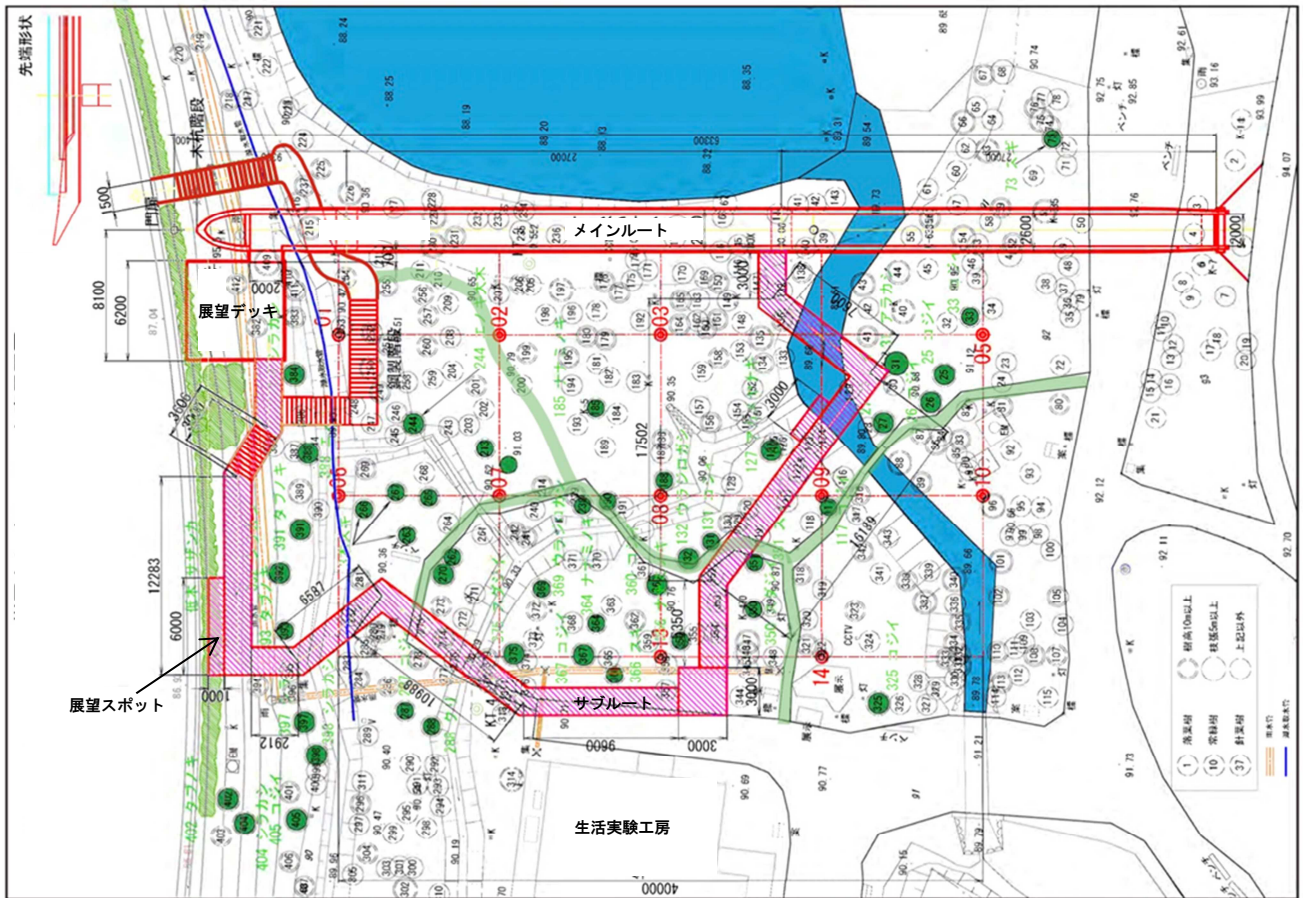
- ① 琵琶湖を体感し眺望できるように、展望デッキとサブルート境界線ぎりぎりに設置し、サブルートにも展望スポットを設ける。
- ② メインルートを、博物館のシンボルの1つである丸子船をモチーフとしたデザインとする。
- ③ メインルートの長さを、琵琶湖の南北長の1/1000の縮尺にし、表示や地図等により琵琶湖を縦断する距離を疑似体験できるようにする。
- ④ サブルートの動線を、ワクワク感を高めるために、先の見通しがわからない曲線とし、階段やスロープにより高低差を設ける。
- ⑤ 琵琶湖側のサブルートから階段を設置して、湖岸へ導く散歩道を設け、森の散歩道も設ける。
- ⑥ 展望デッキを、丸子船が停泊する船着き場のイメージとする。
- ⑦ 大津市と草津市の対岸眺望ポイント整備事業に協同し、展望デッキを草津市の眺望ポイントの1つとして、美しい自然景観を背景とした写真撮影スポットとする。
- ⑧ メインルートやサブルートに琵琶湖や森に関連するオブジェを配置する。

	原案	修正案
メインルート（幅2m）	約5.6m	約6.3m
展望デッキ	約6m四方	約6m四方
サブルート（幅1.5m）	約6.8m	約8.1m
総延長	約130m	約150m
手すり高	約1.1m	約1.2m

イメージ図(修正案)



平面図(修正案)



平面図(原案)



(2) 地域団体と学校向け交流・休憩ゾーン

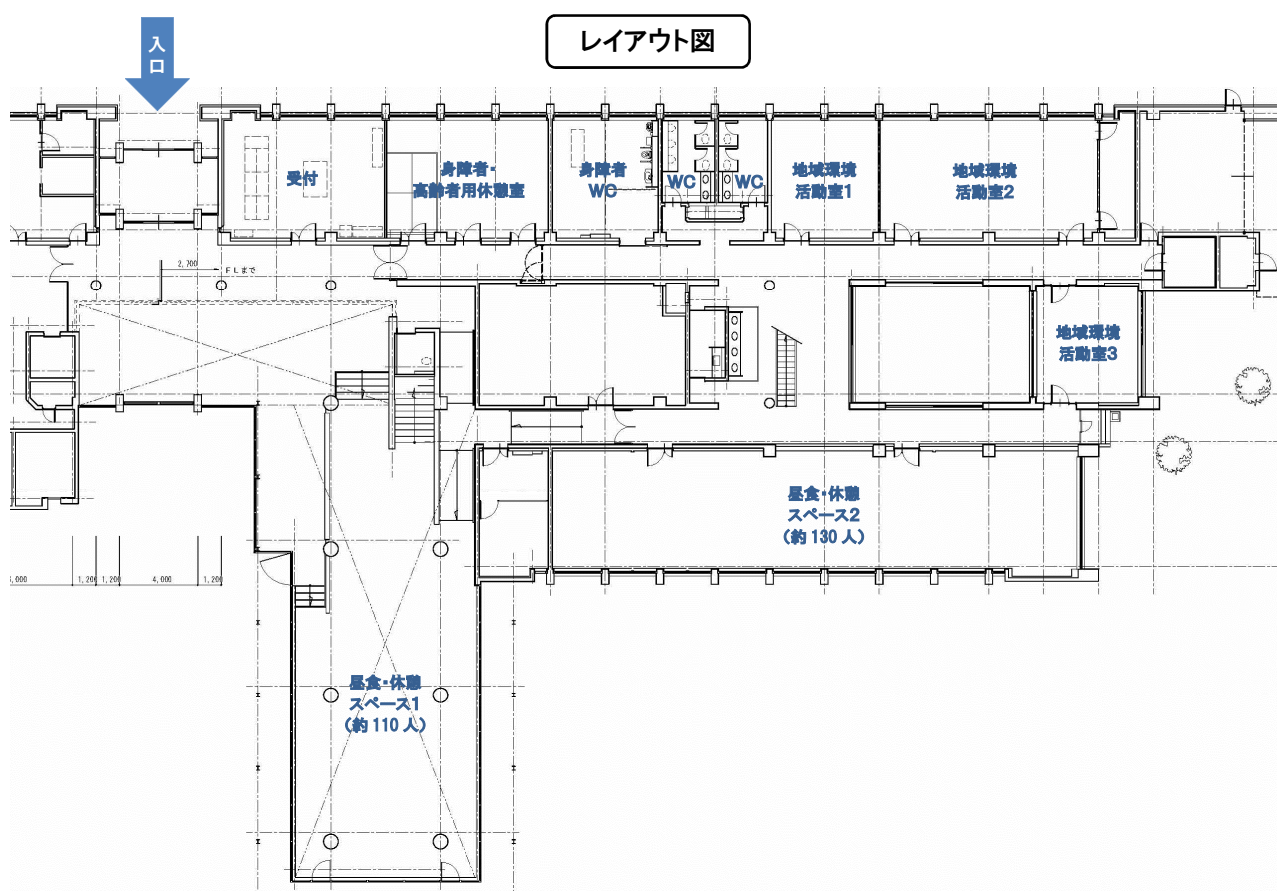
既存施設（旧UNE P施設の一部）の改修による環境学習の拠点となる施設整備

①地域環境活動室

NPO、団体、はしかけ^{※1}、フィールドレポーター^{※2}などの多様な主体の活動場所として、また、環境学習・体験学習も行える場所として地域環境活動室を整備する。（3室を整備）

②団体、学校向け昼食・休憩スペース

団体や学校向けの昼食・休憩スペースを整備し、環境学習・体験学習も行える多目的なスペースとして運用する。（利用できる人数：約240人）



【用語の解説】

※1 はしかけ

地域の人びとが自主的・主体的に博物館活動に参加する制度。参加者自らが活動を企画・運営し、現在、里山体験や田んぼの生き物調査、発掘調査などを行う20のグループがあり、329名（平成29年2月末現在）が登録している。

※2 フィールドレポーター

琵琶湖博物館開館時から行っている参加型制度の一つで、地域の人びとが県内の自然や暮らしについて、身の回りで調査を行い、その結果を定期的に博物館に報告する、いわば「地域学芸員」のこと。

222名（平成29年2月末現在）が登録している。